

9
3406
2



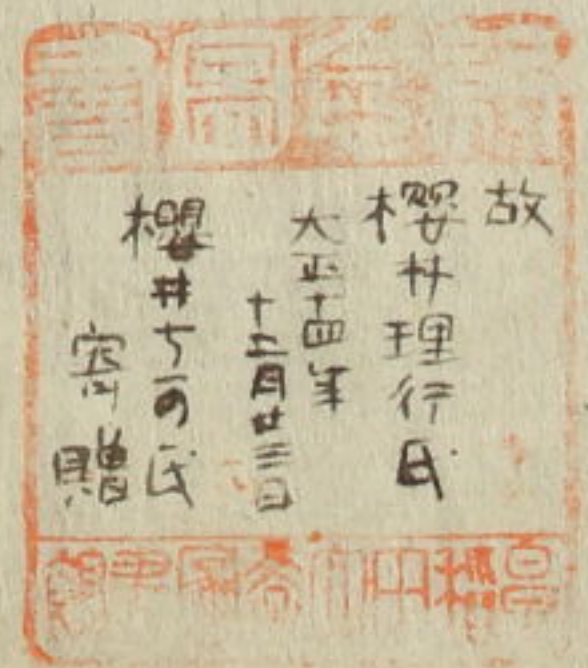
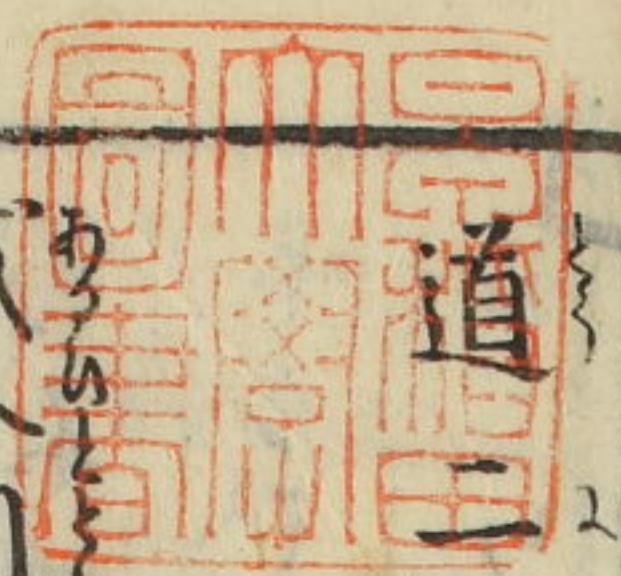


口9  
3406  
巻 2

道二翁道話巻下

八宮齋輯

或人問て曰く三世の如何と一ッ打は内より得  
たりや看る。三世のいは骸の對しての名なり。世  
の故より不可得なり。不可得の思案は別で念  
する事なるやとよりや。るは是と小割して  
見れば。眼前より今よりよのがあるゆへに三世より  
世とよのどや。とていふは世とよの未だを  
示し現世より音の音がすまらぬとゆへに  
三世よりよのどや。とていふは世とよの未だを



道二翁道話















孰形もやうき香もなれゆくホシくもなりくさるも  
 なく何がりんかなりんもなく何とりも念のさ  
 もなく比獄よこそ念の消はあき極樂の念の  
 消はあきぬ消た々来せよ通一の變化ゆく佛が  
 てを尊壽佛より儒のてん天より。皆念の事じや。  
 念の念一切の書物一切の経も用事いかな。三世世  
 界の一切万物皆は天と念してわたり。天と念して  
 しわらひ。魚の水と念して水と念して吐き出して。  
 けしきくわきく水と念してぬれぬれと水と離して。  
 けしきくわらわらぬ人の天と念して。天と念してり

吐き出してわきく。天と念してぬれぬれといひあぬぬのくの  
 まひ亦くわらり思ふてわら。アノまひの根ののり  
 色トヤ列仁の色も念して亦くけ方と念して  
 まひ。け方も念して中よ遠入てわらまねどまひいん  
 ぬけやめりても念のぬい人の天といひけしきまひ  
 世界が有り二階位居の有るやめ思ふてわら。けしき  
 何れもなし。日月星辰とらも何れもなし。虚ろの天  
 と行なせらるらるらどや。是れ混天機よりよもの  
 んらと日月の行なまがが踏ふれぬる。板一切万物入  
 同禽獸とままきて。皆は天と念してわらわら。



















息もぬの息もぬの及丁雅の及丁雅の及。さるるるる  
 やさぬ内がもつて。秘なきよのドヤ。まじりつる。さ  
 別とぬぬと持合して。わりゆく目。さるるる。海軍歴の  
 次第高の心。お原の。おけんの心。絡中系。残でも  
 入て。さげて。わりや。よ。あ。よ。て。わり。何んまり。あ。さ。と  
 い。天地貫いて。一神の心。より。よ。ま。あ。ず。ふ。わり。  
 三界唯一。心。えん。何。を。り。よ。さ。その。ど。又。字。の。清。ん。ど。け  
 き。何ん。の。ゆ。ア。合。島。が。り。ぬ。ゆ。り。ぬ。管。じ。や。皆。り  
 よ。ん。と。さ。ら。ん。て。わり。ぬ。げ。ド。や。腹。の中。よ。火。の。玉  
 と。も。細。よ。建。え。し。て。何ん。の。あ。く。と。小。理。屈。り。よ。て

わりのトヤ。えい。火の玉のう。之。始。を。終。つ。て。わ。り。し  
 を。い。ゆ。ま。さ。つ。何。も。ま。だ。心。が。有。し。火。の。玉。が。わ。り。し  
 何。も。の。も。あ。つ。て。わ。や。せ。ぬ。天。上。天。下。唯。我。獨。尊。天。地。と。俱。よ  
 接。せ。し。て。其。お。の。心。ど。う。ら。天。の。を。で。育。て。よ。き。芽。く。よ  
 成人。も。ろ。が。ど。ん。り。あ。り。死。ん。ど。り。も。極。り。自。由。自。在。の。心。を  
 も。の。ゆ。く。あ。ま。り。甘。ん。で。ツ。イ。ら。ん。と。出。し。こ。の。ド。や。け。い。の。心。を  
 ら。さ。く。自。由。自。在。の。お。も。い。は。骸。い。お。も。い。の。で。お。も。い。て。よ。す。の  
 ト。と。迷。ひ。み。て。ま。つ。と。天。を。別。し。世。帯。も。ろ。ゆ。く。ん。ん。と。あ。る  
 ん。ぬ。り。何。が。り。い。ゆ。げ。ん。何。を。さ。も。今。の。事。ト。や。今。が。り。け  
 ら。ん。と。あ。ま。り。ぬ。く。よ。さ。ら。ら。家。傳。い。つ。て。増。長。し。て。い。つ。の











帰りのやん。うんまのじや。そ時の茶碗しり  
 君もいすん果てある。まじも夜かたすう。何どの  
 一麻おて打底せん。あつて破るうんと。腹も立ちや  
 せぬよの時系碗の形地の破るおれと系碗とい  
 ぶおのひげれもぐぬとこで茶碗の碎世よ  
 今破るしそくひやぬあよからあひもろ子茶碗の茶  
 本底をぬ。この亦と系統めが能う合点し  
 そのドヤ。又焼く火も何一まじドヤ。明り焼くてある  
 ちいとこし火のひらの世は火が消るは本の暗や

夫で燈火の碎世よ消るよそくひやぬ  
 ぬから君ひもろなわくはないぞ。あやぬ  
 火の消えいつくひやんをたりの位がひやん。  
 暗ひんくしひらのをく天あひん火のてり天。およ  
 執形もなく。明暗もなく。無真とろよらんの  
 どのやよよあど。あまなまらませ。ひやうよい  
 ふこもをを海海ひひ方ひ。まやうぬ。お安う性を知る  
 のをと知るのとりよおれと昔いんも上根よ有る  
 ゆくしまよしまと徹し。明徳と明りめこ今有る  
 くと。今の末世未代人の根元も底人なりて







トヤ。又佛良が否々。信々女子曰。参哉。吾道一  
 以貫之。其種々量の書物。数し限ぬ。其方  
 方で能う。味し。せ。と。て。一切の作  
 一切のき物。を。と。の。外。入。其。の。か。ん。と。の。ま。ま。と  
 知る。を。と。り。い。の。よ。し。又。知。の。な。れ。い。我。を。し。お。ま。が  
 見る。お。ま。が。ま。く。お。ま。が。と。る。と。思。入。し。思。惑。の。い。ん  
 事。と。知。の。ト。ヤ。ち。き。し。し  
 け。と。わ。す。事。つ。る。と。油。ひ。た。た。た。の。月。を。あ。ま。り  
 け。た。し。く。ぬ。し。月。ら。り。あ。り。て。有。ぞ。け。月。を

誰ぞ見ておらど。月をいひ。誰か。と。よ。し。て。よ。ま。せ。う。事  
 は。願。誰。ぞ。見て。お。ら。ど。お。ま。が。の。分。別。と。山。を。と。り。て  
 見。し。も。願。あ。ら。だ。又。思。案。分。別。と。止。し。て。見。て。お。ら。ら  
 願。や。是。て。お。ま。が。の。分。別。と。と。り。け。が。益。の。費。と。し  
 事。と。能。う。わ。ら。し。ま。せ。ま。ま。や。ま。ら。て。け。お。ま。が。と  
 う。ら。り。と。除。て。サ。ハ。願。誰。ぞ。見て。お。ら。ど。や。ら。り。お。ま。が  
 見て。お。ら。で。い。役。と。い。何。と。能。う。深。也。と。い。や。か。ん。け  
 お。ま。が。の。玉。地。の。石。人。の。あ。ぬ。事。と。れ。も。自。得。と。ま。ま。と  
 ざ。ら。り。ま。ん。席。よ。お。ま。が。し。り。ま。せ。う。お。ま。が。の。事。で。お  
 ざ。ら。り。と。い。づ。も。舟。の。大。暑。怪。し。う。ぬ。事。ま。の。入。ま。ま。ら







金餅をうけく。女房も事なから。年中夏別々たる。一とく。終り  
終り得て居る。又雪隠へ。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。  
何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。何と申す。一とく。

おと多〜中途で眠れり。女房穿作。跡も先も。何と申す。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。  
一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。一とく。



道二翁道話

二篇

出来

道二翁道話卷之下終

寛政七年乙卯夏六月發行

恭寛舎蔵版

弘所書肆

大坂心齋橋南壹丁目

敦賀屋九兵衛

同谷町筋錫屋町

本屋吉兵衛



